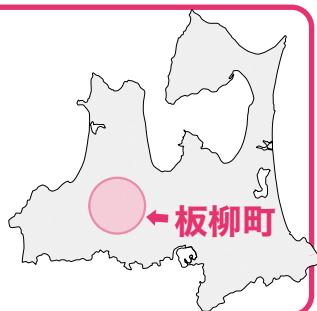


板柳町ミニデータ

- 人口 13,432人
(男6,185人、女7,247人)
- 世帯数 5,460世帯
(令和2年2月1日現在)
- 特産品
りんご。国内有数のりんごの生産地。「板柳町ふるさとセンター」を拠点に、りんごの加工品の生産・観光に力を注いでいる。

【概況】青森県の西部津軽地区の中央に位置し、四季の変化に富む典型的な日本海型の気候を有す。西は岩木川、東は十川の間であり、りんご園・水田としての利用に適した生産性の高い豊かな平野を形成している。



青森県の 市町村 情報

板柳町発★キラリ

各市町村で活躍するグループ・団体・企業等を紹介します。
今回は読み聞かせグループ『おはなし広場』をご紹介します。
代表の北畠千春さんとメンバーの皆さんにお話を伺いました。

熱意ある活動で 読み聞かせ普及を目指す

おはなし広場は、町の呼びかけで集まった有志で、平成13年に設立されました。現在のメンバーは女性10名、男性1名の計11名。月に一度の公民館での定例会おはなし会や、学校・保育所・イベントへの出張おはなし会などを開き、読み聞かせ活動を行っています。

「当時、小学校などでは読み聞かせがありました。もともとたくさんの子供たちに聞かせる場を与えたい。そういう思いからおはなし会は立ち上がったんです」と代表の北畠さん。以来、おはなし広場は少しずつメンバーを変えながらも、20年近くの長きにわたって、たくさんの子どもたちに本を読み聞かせてきました。平成20年に、町が「読書のまち」を宣言して以降は町との連携も強化。さまざまな事業にも惜しみなく協力しています。



▲代表の北畠さん（前列中央）と「おはなし広場」の皆さん。

を届けたり。そういうことが使命だと感じていますね」と1人が話すと、ほかのメンバーも一斉にうなずきました。1つのおはなし会に向けて、2、3度打ち合わせの場を設けています。「テーマを決めて本を持ち寄って、プログラムの構成を考えて、練習を見せ合って。少しでもよくするために、話し合いも重ねます」。手腕を磨くための勉強も怠りません。おはなし広場の熱意ある活動は、地域の宝となっています。

本のチカラ、メンバーとの時間で 個々の生活も充実

長いメンバーは20年近く、活動を続けています。一番の原動力は読み聞かせへの思いですが、メンバーと過ごす時間もまた、かけがえのないものだといいます。

北海道、愛知、富山、青森でも南部地方の出身と、さまざまな地域のメンバーで構成されているのが、今のおはなし広場の特徴です。「知り合いが少ないなか、外に出るきっかけになった」と話すメンバーも少なくありません。家事や農作業との両立は決して簡単ではありませんが、それでも活動が続けたいと思えるほど、メンバーにとって大切な場なのです。

活動の真ん中にある、絵本の力も大きいようです。「読み聞かせをしながら、私たちも癒されています」と、北畠さん。「自分たちが感じる絵本の魅力を、地域の人たちにも感じてもらいたいですね。これからも、少しでも多くの人たちに、絵本に親しむきっかけをつくっていききたいです」。

私が男女共同参画を 担当しています

板柳町生涯学習課
課長
三浦 等 さん



板柳町では、「板柳町男女共同参画推進計画」を、平成24年度から令和3年度までの10年間の計画で策定しました。これに基づき、男女がお互いの人権を尊重し合い、社会のあらゆる分野においてともに参画し、一人ひとりが個性と能力を発揮できる、男女共同参画社会の実現を目指しています。

役場内では、平成26年度から、係長級以上の女性職員の割合が40%になるよう取組を進めています。平成31年4月1日現在で34・33%と目標にはまだ足りていませんが、取組を始めた頃の31・81%からは少しずつ上がってきています。また、女性の採用や派遣研修等についても、積極的にを行っています。

町では毎年フォーラムを開催しており、平成30年度と令和元年度は青森県男女共同参画センターの協力を得て実施しました。昨年のテーマは防災。男女で異なる災害の影響や支援ニーズに関することと、安心して過ごせる避難所づくりに必要なことなどを町民の皆さんに学んでいただきました。今年のテーマは終活。おひとりさまに関するドキュメンタリー上映とワークショップを実施しました。

「おはなし広場」のメンバーの方々がどんどん力をつけてきているように感じており、女性が主体的に頑張っている団体には、そのパワーをさまざまな場で発揮し、あらゆる面で影響を与える存在となっていただけという、町としてもバックアップを続けていきたいと思っています。

(取材：井藤 雪香)